

鹿児島県社保協ニュース NO1

発行：鹿児島県社保協 2022年9月12日

75歳以上医療費2倍化を問うシール投票

医療費窓口負担が上がること 圧倒的多数が反対

去る9月10日、鹿児島市の天文館アーケードで、県社保協主催の「75歳以上医療費2倍化を問うシール投票」を行いました。

昨年6月、高齢者をはじめ多くの国民が反対する中、75歳以上の医療費窓口負担2割化法が国会で可決成立し、いよいよ来月から、この法律が施行されるのを行って行ったものです。今回2割化となる方は全国で約370万人、鹿児島県でも全体の7人にひとり、3万8千人が対象となります。

国は「現役世代と負担を公平化する」として、今回の2倍化が決まりましたが、現役世代の負担軽減効果はわずか月額約30円であることが明らかとなりました。これで、現役世代の負担軽減になるでしょうか。また、年収200万円以上となっている2割負担の対象者を、今後、国会の審議を経ることなく政令によって引き下げることができることから、現在1割の方も2割に引き上がる可能性が十分にあります。

鹿児島県社保協では、シール投票の結果を、県議会等に知らせ、引き続き「中止」「延期」を求めて活動を継続していく予定です。引き続き、皆さんのご協力をお願いします。

1、窓口負担が1割から2割（2倍）になることをご存じですか。

知っている 33名（63.5%） 知らない 19名（36.5%）

2、あなたは医療費の窓口負担が上がることに賛成ですか？

賛成 0名（0%） 反対 56名（98.2%） どちらでもない 1名（1.8%）

3、あなたは、昔、高齢者の医療費窓口負担が無料だった事を知っていますか？

知っている 20名（46.5%） 知らない 23名（53.5%）



今回のシール投票で、「昔、高齢者の医療費窓口負担が無料だった事を知っているか」を聞きました。結果は「知らない」が「知っている」をわずかに上回りました。この間政府は、世代間に対立をつくり、「公平」の名のものの、制度改悪を進めてきました。社会保障の変遷やたかひの歴史なども、広く県民に知らせ、対立ではなく「団結」して（たかひの相手は国民同士ではなく政府にあること）、社会保障の改善に取り組むことの重要性を改めて認識しました。